

1. 人口ビジョンとは

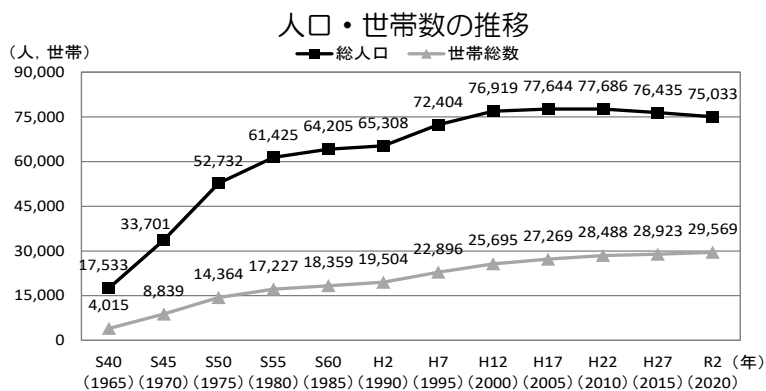
■人口ビジョンの趣旨

本市における人口の現状を分析し、今後めざすべき人口の将来展望を提示するための基礎資料

2. 人口の現状

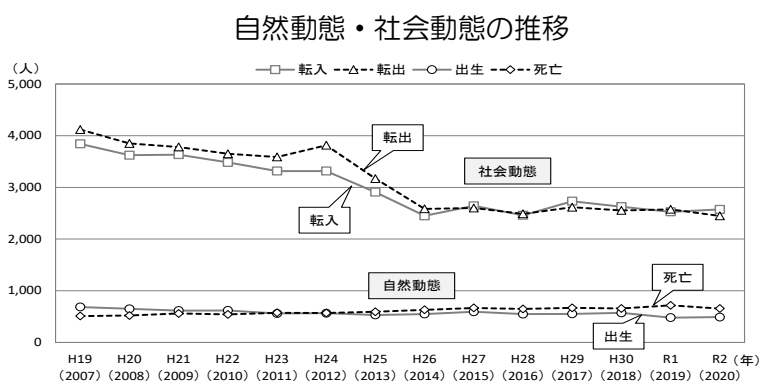
1. 総人口の減少は緩やかだが、現役世代と子どもが減り、後期高齢者が大きく増加

- 人口構成を踏まえると、今後も人口減少が続くと見込まれる。
- 2020年の国勢調査では、高齢者1人を現役世代（生産年齢人口）2人で支えている関係となる。
- 高齢者の内訳では、後期高齢者が大きく増加しており、前期高齢者を上回る。子どもの数（年少人口）が、高齢者の半分以下。



2. 自然動態は、死亡数の増加により減少傾向、社会動態は、転入の増加により横ばいから微増

- 人口構成を踏まえると、出生数が大きく増加しない限り、自然減が続く。
- 近年は、子育て世帯の流入により社会動態が横ばいから微増。



3. 市独自の将来人口推計

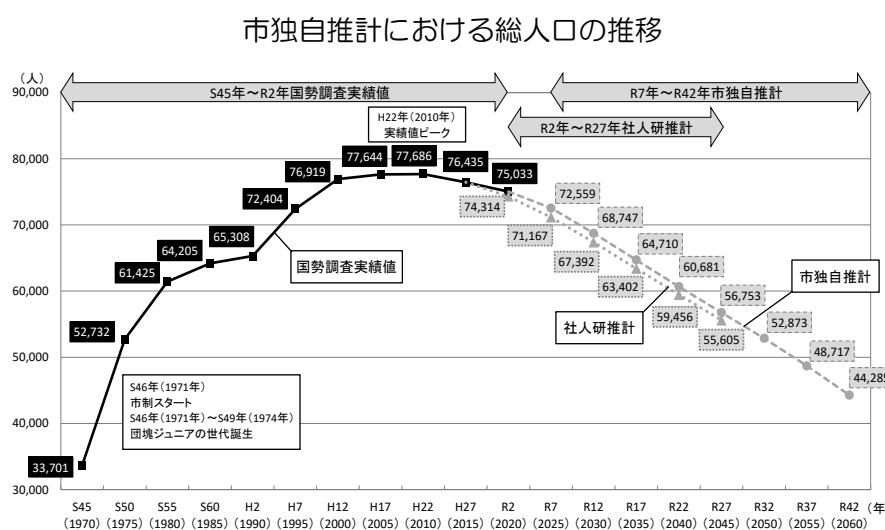
1. 市独自推計の考え方

社人研推計（2015年国調ベースで、自然動態・社会動態ともに減少していく設定）に以下2点を補正

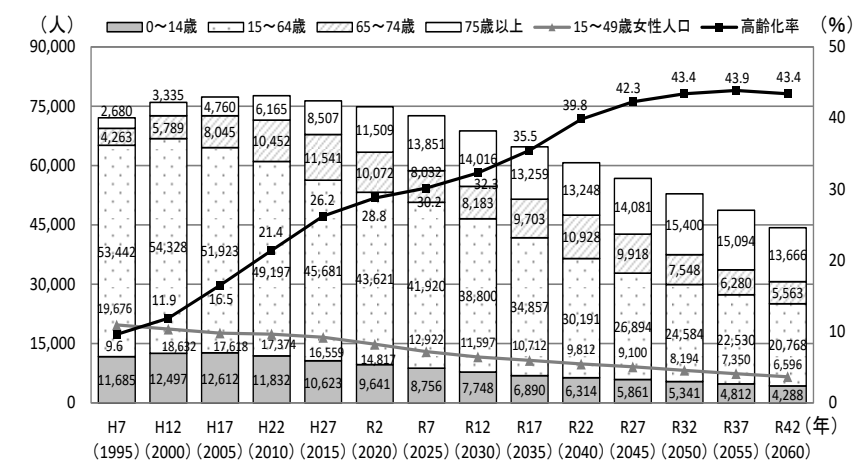
- 最新の国勢調査実績（2020年10月1日）の反映
- 2025年までに見込まれる大規模住宅開発に伴う人口増の反映

2. 市独自推計の結果

- 市独自推計では、2040年の総人口は60,681人となり、2020年からの20年間で14,352人減となる見込み
- 生産年齢人口（15～64歳）と年少人口（0～14歳）は、一貫して減少し続け、2040年には人口構成における年少人口、生産年齢人口、老年人口の割合が、「1：5：4」となる見通し。



市独自推計における年齢4区分別人口、15～49歳女性人口、高齢化率の推移



4. 人口の将来展望（シミュレーション）

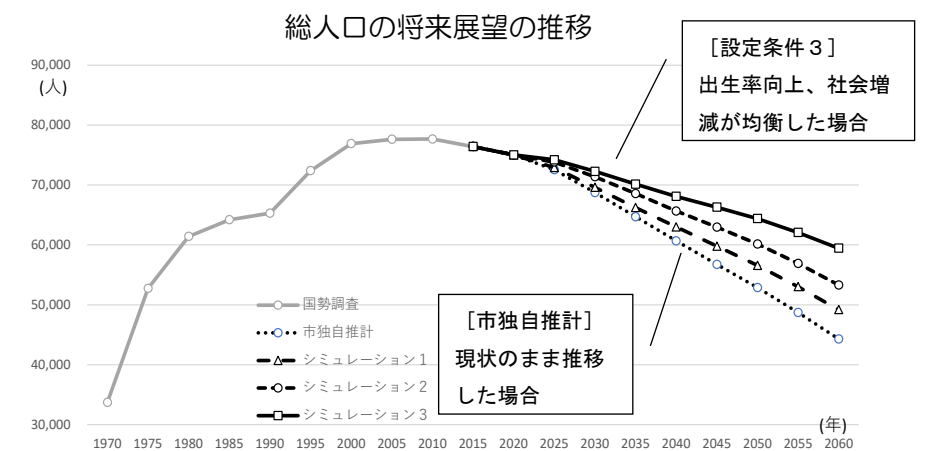
1. シミュレーションの考え方

市独自推計は、「現状のまま推移した場合の将来人口」を示すものであり、人口に関する各種取組を実施した場合の人口の将来展望を示すため、シミュレーションを行った。

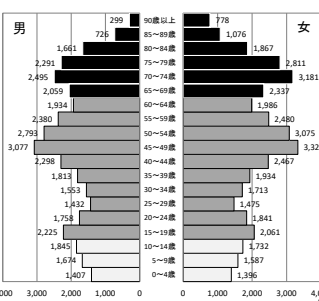
- （設定条件1）出生率が向上した場合
- （設定条件2）社会増減が均衡した場合（継続的な転出超過に陥らない状態）
- （設定条件3）出生率が向上し社会増減が均衡した場合

2. 人口の将来展望（シミュレーション結果）

シミュレーション結果より、本市の人口減少の抑制には、出生率の向上よりも、社会増減の均衡の方が寄与することが分かる。ただし、長期的に人口減少を食い止めるバランスのとれた人口構成とするためには、出生率の向上と社会増減の均衡のいずれも必要（設定条件3）となる。

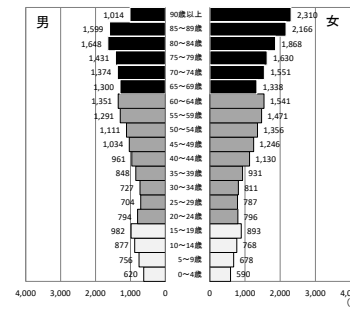


【2020年の現状】



現状のまま推移した場合

【2060年の姿】



出生率が向上し、社会増減が均衡した場合

バランスのとれた人口構成を目指す必要がある。

